

校長のつぶやきⅡ

校長室便り 第52号

令和3年1月8日 山内

○始業式校長講話 ー報われなくとも努力するのが人間ー

岩高生の皆さん、先生方おはようございます。本日は、会議室からオンラインで始業式の話をしていただきます。短時間で終わりますので聞いてください。

1月23日の終業式で冬休み中事故等に注意してお話しましたが、今朝の時点で大きな事故等については報告がありませんでしたので、とてもうれしくホットしているところです。

ところで、皆さんは正月2日・3日の箱根駅伝はテレビで見ましたでしょうか。報道によれば、史上最高の視聴率だったそうですのでテレビ観戦した岩高生や先生方も多かったと思います。結果は、復路100区で駒澤大学が創価大学を残り2キロで逆転して13年ぶりに優勝しました。私の母校駒大久々の優勝に我が家も大いに沸きました。

駒大アンカーの3年生石川選手は、去年は同じ最終区ゴール手前100メートルで抜かれ、順位を落としたその悔しさを晴らそうとこの日まで練習してきたそうです。エントリーされながら後輩に出番を譲り、走られなかった4年生達も裏方に徹しました。その努力が報われる形となりました。

皆さんもこれまで、努力して報われたり、あるいは努力しても報われなかった経験があるかと思います。そうです、報われない努力もあります。しかし、皆さんも経験があると思いますが、物事が上手くいった時は必ず努力していたということが言えると思います。だから人間は上手くいく、いかないは別として努力しなければならないのだと思います。

アンカー勝負で敗れた創価大3年生の小野寺選手は初めての箱根駅伝でしたが、チーム内でも1、2を争う努力家だそうです。その努力を買われての起用でした。その努力が残念ながら優勝という形で報われることはありませんでしたが、堂々の準優勝です。途中棄権することもなく、10人でつないだ襷をかけてゴールテープを切りました。

何より小野寺選手はスポーツの一番の魅力である「負けを知る」ことができました。負けを受け止めることは、勝った時以上に人間を成長させてくれます。小野寺選手はじめ、この冬に「負けを知った」すべての人の今後に期待したいと思います。

東京都、千葉・埼玉・神奈川県に緊急事態宣言が発令されました。コロナの影響でこの一年も大変な年になるかもしれませんが、仮に報われなくても、成功を信じて目標に向かって努力しましょう。今年一年が皆さんにとっていい年であることを願っています。

今日も話を聞いてくれてありがとうございました。これで始業式のお話はお終いです。

